



Creative Application A08

# 思想と哲学1：ゼロという概念

2024年度

渡邊 賢悟 (渡辺電気株式会社)

# 受講のてびき

---

- ・ 本資料は作成者の解釈が含まれます。答えのない議論があります
- ・ 前半：本日のテーマ紹介と座学
- ・ 後半：テーマを深める談義・質問・考察
- ・ 気になることをメモをしながら受講してください

# 資料の見方

---

テーマに沿った項目  
(座学で説明します)

左の内容に関連した  
補足キーワード  
(調べ物に役立ててください)

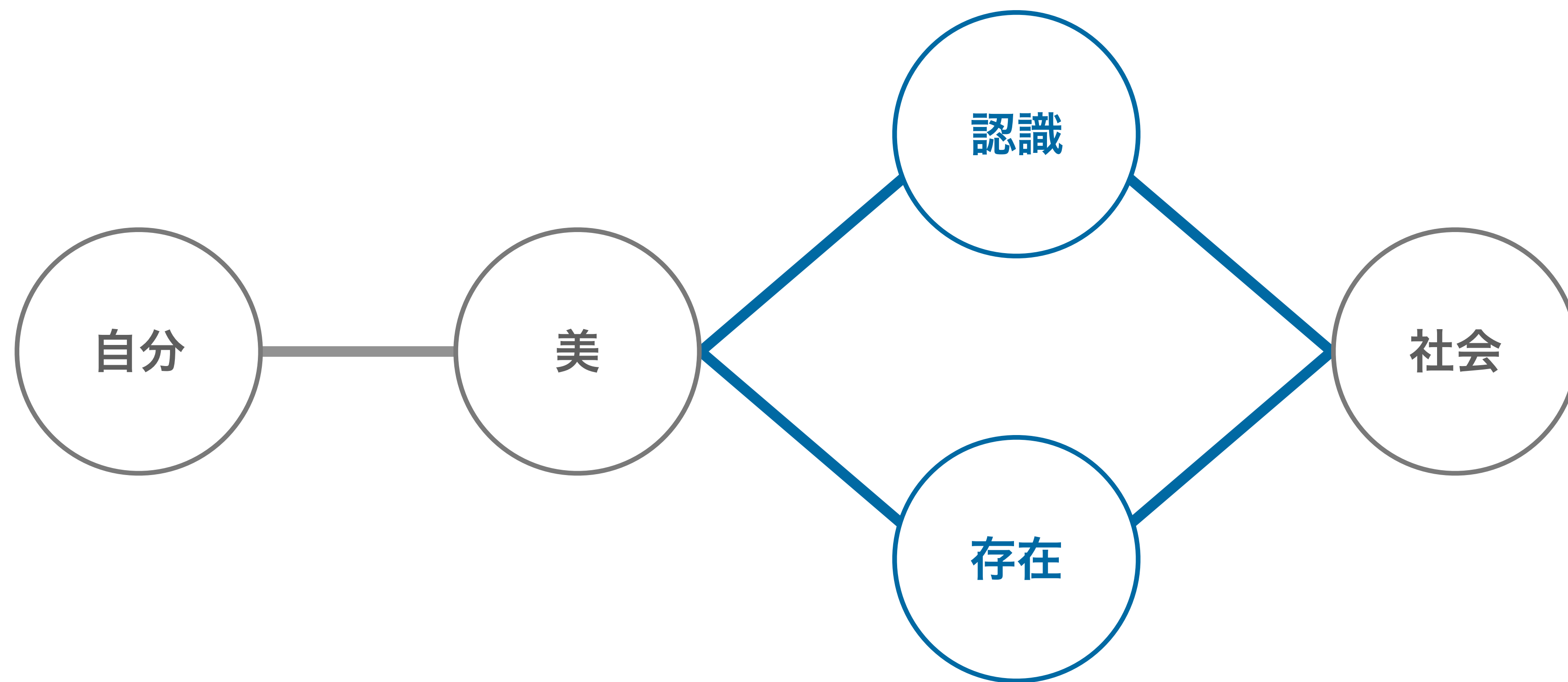
# 本日のテーマ

---

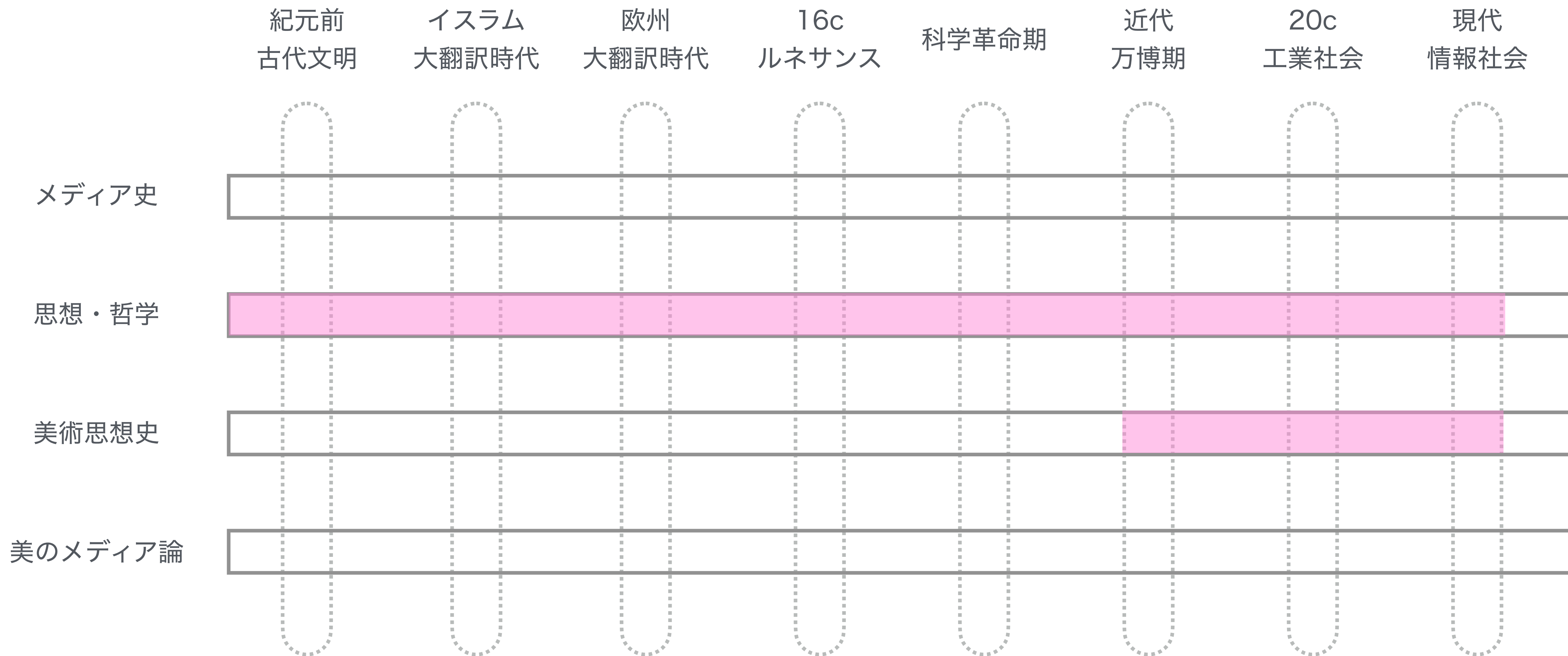
- ▶ 「無い」の発見から「存在」への問いへ

# 関連要素図

---



# 今回の領域



# 美の主観性・普遍性と無・存在

---

- ▶ **表現のメディア化**
  - ▶ 表現をつなぐためのヒント → **美**に着目
  - ▶ 美の普遍性を活かすことはできるか？
- ▶ 美の模索の中、浮かび上がった**無**
  - ▶ 人は**無**に美を感じている
  - ▶ **無**に関する歴史を振り返り、効用を考察する

# ゼロ(無)の発見1 - 発見以前の議論

## ▶ 自然学

- ▶ 世界は物質に満たされている

## ▶ 原子論

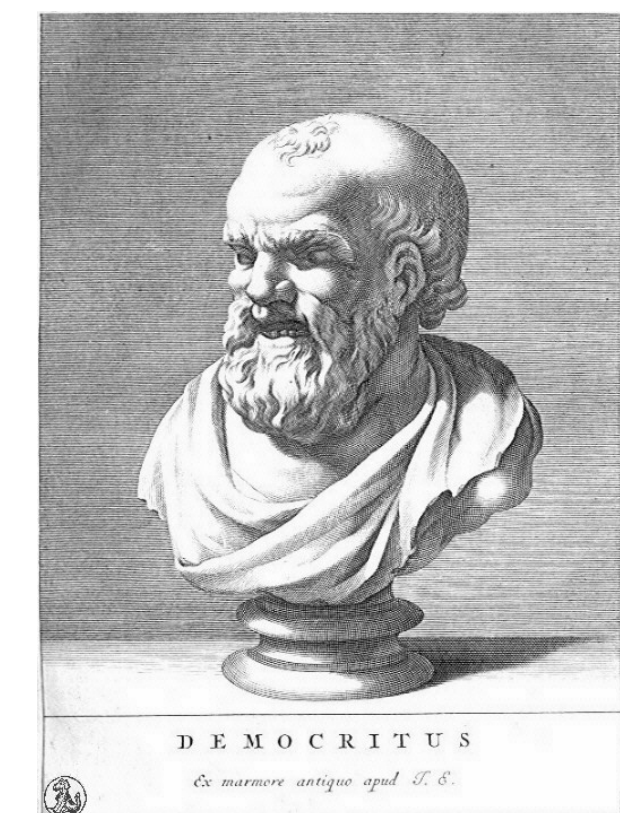
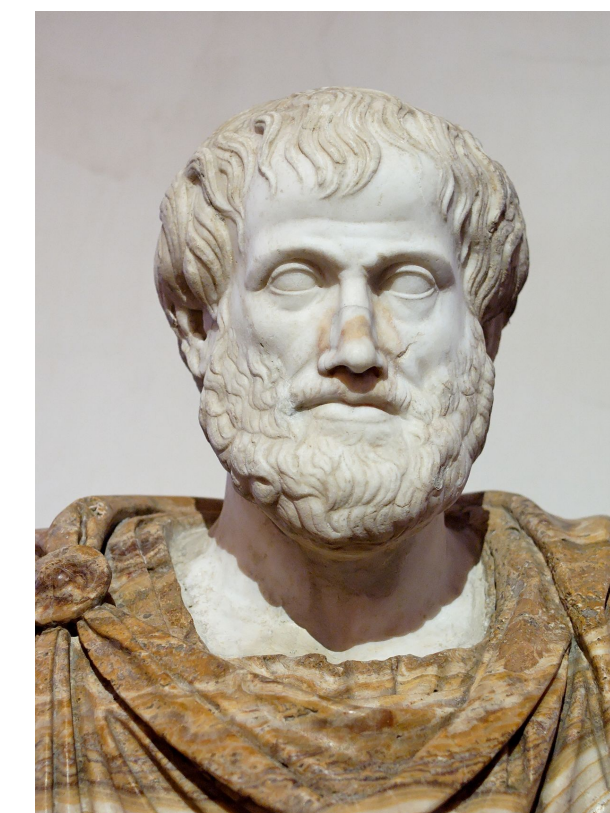
- ▶ 世界の最小単位はアトム(原子)である
- ▶ アトムは**ケノン(空虚)**の中を飛び回っている

- ▶ **無**を表すケノンは議論されたが

物質に満たされている世界観が支持された

### 関連キーワード

- タレス, ソクラテス
- プラトン, イデア論, 实在論
- アリストテレス, 自然学
- デモクリトス, 原子論, アトム, ケノン
- ルクレティウス, 「物の本質について」
- 素朴实在論



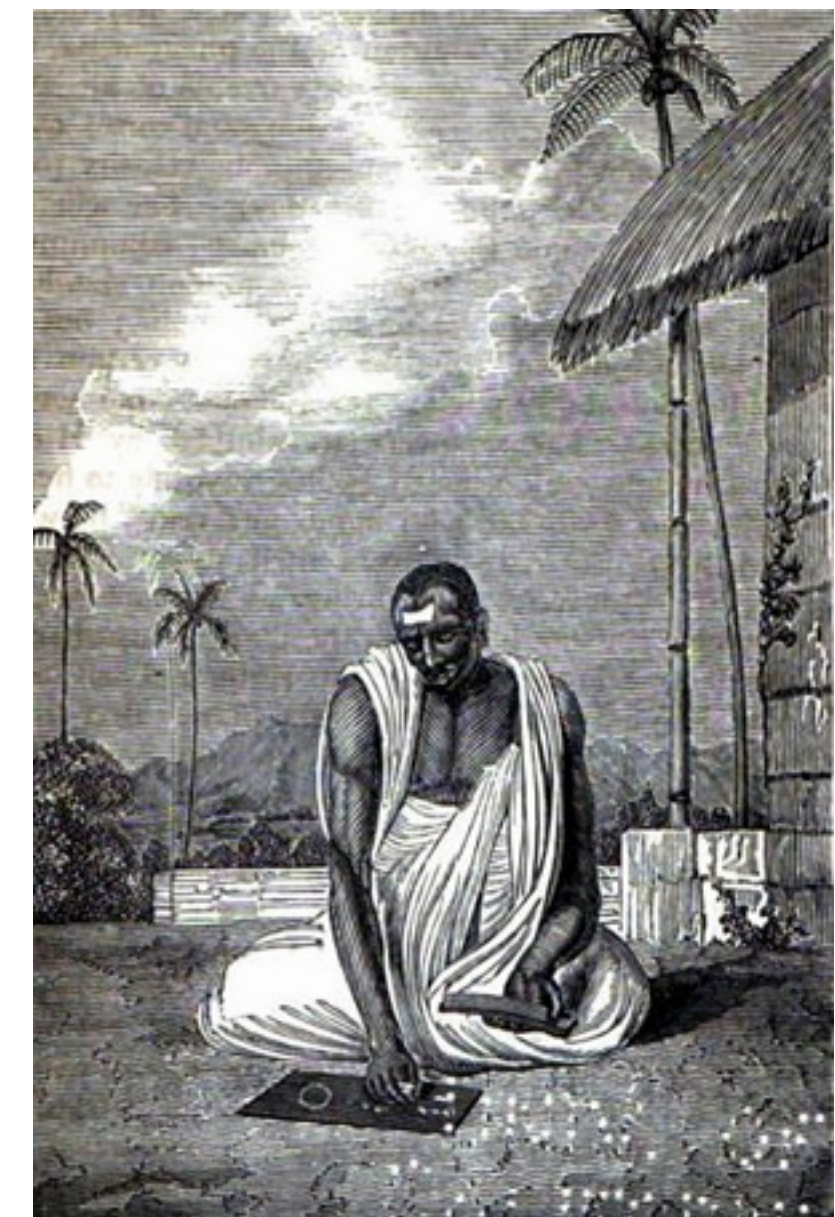


# ゼロ(無)の発見2 - アラビア数学とゼロ

- ▶ 数学領域のゼロ概念の獲得
  - ▶ 「代数学」の時代に、数学にゼロが加わる
  - ▶ 宗教的な理由で**無**が否定されていたなど
- ▶ ゼロが表現され、**無**の概念が可視化された

## 関連キーワード

- バビロニア数学, バビロニア天文学
- ブラフマグプタ, インド数学
- ユークリッド, 幾何学
- フォーリスミー, 代数学
- 算木

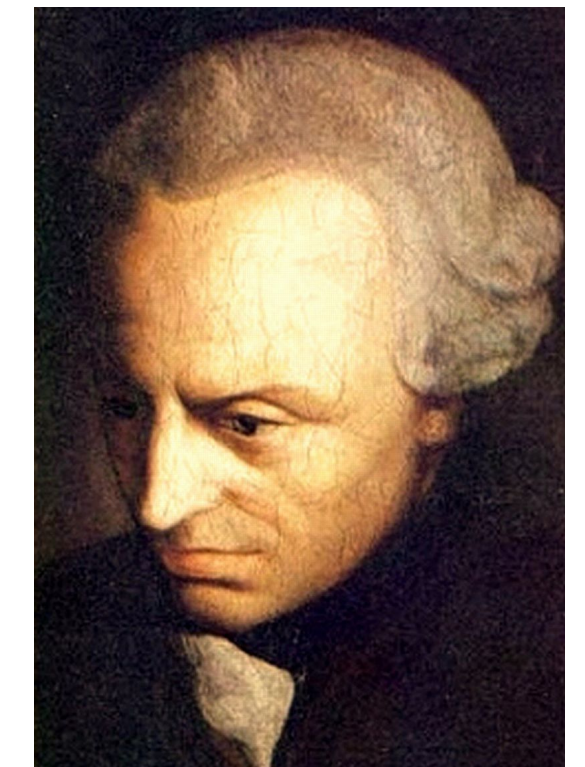


# 無と有 - 存在論と認識論

- ▶ **無の気づきから，有への問いの発生**
  - ▶ 認識するモノは，本当にそこに在るのか？
  - ▶ 主観の範囲内で，存在は認識されている
- ▶ **存在で満たされた存在論から**  
**主観的な存在認識を主とした認識論へ**

## 関連キーワード

- デカルト，「我思うゆえに我あり」
- カント，批判哲学
- ヘーゲル，ニーチェ
- 認識論的転回，カント以前カント以後





# 無の魅力 - 空白や間の美

## ▶ 間(ま)や空白への注目

- ▶ モノに満たされた構図に**無**が採用された
  - ▶ **無**がもつ意味・美しさへの気づき
- ▶ **無**が生活の中にすでにあることを認識し、  
表現や生活の向上に用い始めた

### 関連キーワード

- 間, 空白, もののあはれ, 幽玄
- 世阿弥
- 千利休
- ジャポニズム, 「ラ・ジャポネーゼ」
- 「見返り美人図」
- 時間的な間, 漫才の間, 枯山水
- 空間的な間, 大広間



# 無の応用 - 余白のデザイン

- ▶ **製品やビジュアルデザインに現れる無**
  - ▶ 無(余白)を用いた構成・設計
  - ▶ 近現代デザインの主要要素にも用いられる
- ▶ **積極的な無の活用と無と有の統合認識**

## 関連キーワード

- チヒョルト, ホワイトスペース, Die neue Typographie
- マージン
- スイス・スタイル, ブロックマン
- Helvetica
- デ・ステイル, モンドリアン



# 「無い」の発見から「存在」への問いへ

---

- ▶ 美の模索から無への関心
- ▶ 古代：存在を前提とした世界観
- ▶ 中世：**ゼロ**から導かれる存在・認識への問い
- ▶ 近現代：**無**の社会への活用
- ▶ **これからのゼロ・無・余白・余裕の応用**

# CreApp-Bのリンク7

---

- ▶ **作っているものに冗長なことはないか振り返る**
  - ▶ 満たして示すよりも、あえて空白を入れると伝わりやすいことがある
- ▶ ポジティブな引き算の作業を行う（ぜい肉を削ぎスリムにする）
- ▶ 美しさの側面からも積極的に無を採り入れる
- ▶ 時間と空間の両面で配慮する

# 本日の談義・考察一助

---

- a. この社会に無がなかったと仮説したら、社会はどんなだっただろうか
- b. 無の概念を社会に活用した事例を挙げてみたい
- c. 無の社会実装の中に美を感じられる例はあるだろうか
- d. 上記に限らず、自由に質問・問題提起・雑談をしてほしい



# 次回予定

---

- ▶ **思想と哲学2：存在・実在・リアリティ**



# 参考文献

---

1. 伊東 俊太郎, 「十二世紀ルネサンス」, 講談社学術文庫, 2006
2. 吉田 洋一, 「零の発見 数学の生い立ち」, 岩波書店, 1979
3. バウムガルテン著, 松尾大訳, 「美学」, 講談社, 2016
4. 岡本 裕一郎, 「いま世界の哲学者が考えていること」, ダイヤモンド社, 2016
5. 竹田 青嗣, 「現象学入門」, NHK出版, 1989
6. 西垣 通, 「AI原論 神の支配と人間の自由」, 講談社選書メチエ, 2018
7. マルクス・ガブリエル著, 清水 一浩訳, 「なぜ世界は存在しないのか」, 講談社選書メチエ, 2018